

議案（１）中山間ふるさと・水と土保全対策事業等に関すること

< B 委員 >

質問が２点あります。

事業を継続している地域において人口減少が抑えられている等の効果を把握していれば教えてほしい。

また、中山間地域資源活用プランの策定について、未策定の地域が多い理由を教えてください。

< 事務局 >

人口減少に関して具体的な数値は把握していないが、各団体の交流人口は把握している。

平成３０年度の調査では「ふるさと秋田応援事業」において約 8,000 人の交流人口があった。年々実施団体が増えているのでこの事業に関係する交流人口は増加している。

< 事務局 >

振興局を通して各市町村に要望調査を実施しているが、事業を実施する農業者の後継者が不在であるため、地元からの要望が少ない状態である。

県が主体となった夢プラン事業等を通して支援事業を実施しているので支援が行き届かない状態にはなっておらず、「元気な中山間農業応援事業」と同等以上の支援を行っている。

< A 委員 >

先ほどの回答に関する質問だが、「夢プラン事業」では 1/3 補助、他の事業では 1/2 補助となっているが補助率に差があるのはなぜか。

< 事務局 >

市町村財政や地域の特性を考慮し、状況によって使い分けるためである。

< E 委員 >

コロナウイルスによる事業への影響はどの程度か。

また、「Cool Akita 農泊推進事業」への影響が特に大きいと思われるが、どのような対応をしているか。

< 事務局 >

「Cool Akita 農泊推進事業」においては感染状況を考慮し、事業内容の変更を検討しながら対応をしていく予定である。

< 事務局 >

「魅力ある里づくりモデル事業」や「ふるさと秋田応援事業」においては十分に感染防止対策を行った上で事業を実施する見込みである。

また、今後の状況を見ながら、規模を縮小して実施するなどの変更はあり得ると考えて

いる。

< E 委員 >

国際教養大学をはじめとする県内大学の留学生が少ないため、県外の留学生を活用することを検討してはいかがか。

< F 委員 >

今まで活動をしてきた団体の報告では学校からの要望が少なく企業からの要望が多い。

子供たちに農業にふれるチャンスを増やし、地元の指導員のレベルも上がるが見込めるので地元の学校や教育委員会と連携を図ってほしい。

< 事務局 >

県内の幼稚園や保育所、認定こども園、小学校へ農業体験に関するアンケートを実施している。

農業体験の施設や関連事業を教育委員会や各学校等に周知していく。

< A 委員 >

秋田県の人口が減っていくことは確かなので新しい地域のあり方を模索していく必要がある。そのため、各事業においてこれまで行ってきたことに対して評価を行うべきであり、事業の枠組みを変えないとしても、方向性を変えるなど今後の進め方を検討することが必要ではないか。

「人口減少が抑えられた」といった成果よりも、人が生活していく上で必要な「経済活動」に焦点を当てるべきである。

しかし、これらの事業だけが経済活動の要因となるわけではないので、少なくとも事業で実施したことについては、最も効果的なバックアップを検討し実施していくべきであると考え。

< C 委員 >

これまで認定したグリーンツーリズムサポーターは SNS を活用した情報発信等を行っているのか。

< 事務局 >

昨年度、過去に認定したグリーンツーリズムサポーターを対象にフォローアップ調査を実施した。

回答のあったグリーンツーリズムサポーターについては、SNS による情報発信やサポーター派遣活動に協力している。